

郵政事業庁飯倉分館のこと

郵政事業庁総括専門官 高橋 靖広

最近お会いする方から当郵政研究所が置かれている建物のことをよく聞かれるが、二度も勤務しながら不明なところが多いため、今回良い機会なので調べてみた。

完成は、昭和6年1月（同年12月、現東京中央郵便局も完成）。貯金局用庁舎として建築。関東大震災で逓信本省とともに同一構内にあった貯金局も灰燼に帰し、仮住まいの後、ようやく建設されたもの。なお、本省は、昭和18年ここ分館に移転するまで仮住まいのまま。場所は、徳川家私設図書館南葵（なんき）文庫跡地。当時の住所は、麻布区飯倉六丁目。

旧住所については、麻布区狸穴（まみあな）と記す文献も。かつて旧郵政省入省当時、飯倉分館は「狸穴の庁舎」と呼んでいた方が多かったような記憶がある。ちなみに〔狸穴〕は、現在、「麻布狸穴町」として残っており、分館前の道路（外苑東通り）を挟んだ向かい側の地域一帯。江戸時代、「まみ（雌狸、ムササビの類）」が住む穴があったことから名付けられたとか。「飯倉」は、「穀倉」・「伊勢神宮の屯倉」説等諸説あるようだが、平安時代に既にあった地名とか。ただし、今は交差点や小学校等の名前の中に姿を留めるのみ。

さて当初は、貯金局として使用されていたが、昭和18年、当時の本省は木造で空襲による被災を受け易いことから、より頑丈な当館を、先に触れたよう本省用に転用。以降、組織は幾多の変遷を

経るも、昭和44年、霞ヶ関旧郵政省庁舎に移転するまで、郵政事業関係の本部として機能。付言すれば、昭和20年4月、罹災した麻布郵便局（飯倉4丁目）がこの分館に仮住まい。21年、結局それまで当館内に設置されていた逓信院内郵便局を廃止し、麻布郵便局が本住まい。当初は分館正面向かって左側。昭和59～62年全面改装。その際、右側に移転。昭和44年以降、一時国土庁が入居（同庁は、昭和58年霞ヶ関に移転）。本省移転後は、オンラインシステム関係の部署等が入居。当郵政研究所は、昭和63年に入居。

分館の周りを少し紹介すると、高台にあるため、周りにやたら坂が多い。北から時計回りに三年坂、雁木坂、榎坂、狸穴坂、鼠坂、行合坂、落合坂等。狸穴坂は、もちろん麻布狸穴町にあり、ロシア大使館向かって右側の坂道。参考までに、ロシア大使館向かって左側の道は、袋小路になっているが、かつて東京天文台が設置。その関係から、日本測地原点の一つである経緯度原点が設置（測量法施行令2条）。この原点設置場所を記念し、後世に残したいとして、1973年日本人発見小惑星の一つに「AZABU」の名。

最後に、調べていて困ったことが一つ。「飯倉」の発音。分館前表示板振仮名は、「iikura...」。東京都港区史や分館近く飯倉片町交差点信号の地域表示板振仮名は、「iigura...」。さて？

（参照文献は省略させて頂きました）